

最近相談のあった園芸に関する質問等について記載いたします。

芋の保存・・・いも類の生まれ故郷はサトイモはインド。サツマイモは中米ですが、日本には中国南部から琉球列島を伝って来たと言われていています。ジャガイモは南米アンデス地方が原産地です。何れも暖かい南方から来たものです。従って、日本の冬はこれ等芋にとって寒いため、保存には気を配ってやる必要があります。

保存温度の目安。

サトイモ・・・6~10 、サツマイモ・・・10~15 、ジャガイモ・・・3~5
上記の温度を下回ったから腐り始めるわけではありませんが、危険性が大きくなっていくということです。

保存に際しての留意点

保存するイモは土つきで保存するのが原則です。洗ったりすると傷をつけることになり腐りの原因になりやすい。サトイモなどは株ごと保存します。保存する前には十分乾かしておきます。**湿気があることが腐りを誘発します。**

車庫や倉庫などは温度が低いので不向きです。家の中で人が通常使用する部屋が好ましい。ただ、あまり**温度変化が激しい所ではとがえって腐りやすくなります。**

保存容器はダンボール箱が適当です。発砲スチロール箱を使用する場合は通気性がないので密閉してしまうと湿気がこもりやすく却って腐りやすくなります。温度、湿度の変化を少なくするため、刳殻、オガクズ、新聞紙などで包むようにしてください。

Q：堆肥にウジがわいた。

A：堆肥の材料として畜糞や腐った生ごみなどを多く入れると、堆肥化への醗酵が進まず腐敗へと進行します。こうなると堆肥の材料は嫌気性醗酵（水分が高くドロドロ状になる）し悪臭を放ちます。この臭いにアブの仲間やハエの仲間などが集まり産卵します。これが孵化しうじ虫となって這いまわります。これらの虫を農薬や家庭用の衛生害虫殺虫剤を使って抑えることは可能ですが、圃場に使用する際に農薬取締法上の問題や、堆肥中に未知の化学物質が混入する危険性があります。石灰窒素の散布の方がまだしも言い訳が立ちます。

こうした状況にならないためには、**乾燥した稲ワラ、落ち葉、モミガラ、草木灰など水分を吸収する材料を十分に混ぜ込むなどして水分過剰とならないようにする必要があります。**また、良質堆肥を作るためには醗酵を阻害する腐った生ゴミ、油や塩分を多く含んだものなどは混ぜ込まないよう注意します。さらに堆肥に雨水などが流入しないよう遮断するなどの配慮が必要です。

Q：シクラメンの葉が次々と黄色くなる

A：シクラメンは管理のしにくい花です。基本的な性格としては、**日当たりがよく温度変化の少ない場所を好みます。**したがって、日のあたらない玄関や、暖房の効きすぎた部屋、温度が5℃を下回ることが多い玄関先などの戸外では花がすぐ弱ります。

また、給水方法が下からの吸い上げ方式が望ましい。上からやる場合は花や球根をぬ

らさないように注意します。湿気た状況が続くと灰色カビ病に冒され、球根が腐敗し始めるとともに葉が黄色くなり、花茎が倒れたり枯れたりします。

窓口対応の農力アップメモ

石灰質肥料の特徴と使い方（JA 在庫品目を中心に解説します。）

資材名	7L加分	特徴	主な用途
	苦土分		
マグイース	73%	PH 矯正力が強い。施用後 PH が急激に上昇するので播種、定植まで 10 日程度空ける。	転換畑、開墾畑、赤土畑、使用経歴の浅い畑
	20%		
苦土石灰	55%	PH 矯正力は穏やか。一般向き。	転換畑、赤土畑、使用経歴の浅い畑など
	16%		
消石灰	65%	PH 矯正力が強い。施用後 PH が急激に上昇するので播種、定植まで 10 日程度空ける。	転換畑、赤土畑、使用経歴の浅い畑、苦土の集積が進んでいる畑
セルカ	46%	PH 矯正力は弱い。牡蠣ガラ粉碎品。有機物由来の微量元素を含む。	ハウス、熟畑など
	0.7%		
炭酸カルシウム	53%	PH 矯正力は弱い。苦土蓄積している圃場向き。	苦土の集積が進んでいるハウス、熟畑など
過磷酸石灰	(60%)	本来は磷酸質肥料であるが石灰分も多く含む。PH 矯正力はないので 7L 加分の保証は無い。	PH の高いハウスや熟畑など
有機ミネラル	46%	PH 矯正力は弱い。牡蠣ガラ粉碎品。有機物由来の微量元素を含む。セルカと同類の資材	ハウス、熟畑など
	0.7%		

石灰は 20 年位前までは土壤改良資材とされていましたが、石灰分は肥料要素としても植物に必要なものであるため、石灰質肥料と呼び名が改められました。我が国は降雨量が多く、露地畑は常に酸性化しやすい状況にあります。土壤が酸性化すると、土壤中のいろいろな養分が植物に利用されにくくなってきます。このため石灰分施用し土壤を中性化することにより、いろいろな養分を植物が利用し易くします。このため石灰質肥料は石灰分の含量で表さず、土壤 PH を矯正する力（能力）で表現します。この指標がアルカリ分として表示されます。数字が高いほど酸性に対する強制力が強いことを示しています。また、苦土分も矯正力を有しています。

したがって、石灰質肥料の使用区分としては PH の低い（酸性土）畑はマグイース、消石灰。

一般の畑は苦土石灰やセルカなど、土壤分析の結果、苦土が蓄積している畑は炭酸カルシウム、ハウス土壤など PH が高い圃場は過磷酸石灰や石膏資材（ケミカルンなど）を使用、なお、土壤分析の結果次第では無施用ということもあり得ます。